

12/24
朝日

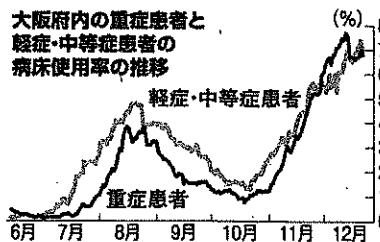
病床逼迫 軽症・中等症も

新型コロナウイルスの感染拡大が収まらない大阪府では重症患者用の病床だけでなく、軽症・中等症用の病床も逼迫している。府は23日夜に関係会合を開催。対応できる病床を200増やすよう求める方針を示したが、すぐに解消である見通しはたっていない。



大阪府 重症者の使用率並みに

大阪府内の重症患者と軽症・中等症患者の病床使用率の推移



「第2波と比べて高齢者の入院期間が長く、軽症・中等症患者が非常に増えている」。23日についた府の新型コロナウイルス感染症対策協議会で、府健康医療部の藤井陸子部長は危機感をあらわにした。

府内の軽症・中等症患者は20日現在906人で、確保している1256床に占める使用率は72・1%。重症床の66・9%を上回った。軽症・中等症患者の使用率は22日に60%台へ下がったが、感染拡大の「第3波」

軽快しても転院断られ

民間病院は対応できるのか。2次救急を行う府内の病院関係者は不安視する。一般の患者への対応で精いっぱい、コロナ患者を受け入れるには「不十分な中で受け入れる」と語る。そもそも現時点では、コ

ロナに対応できる病床も、十分活用できていない実情もある。一般病床へ転院される患者が転院できていない

いという。中等症向けに45の病床がある大阪府堺市の近畿中央呼吸器センター。厚生労働省の基準では、「発症日から10日経過し、症状軽快後に72時間経過」した患者は退院して一般病院に移ることができるが、断られることがある。

センターの看護師長は「検査で陰性が確認できないと受け入れられないことが多い」と明かす。基準ではPCR検査による陰性確認は不要だが、感染リスクを懸念したことだ。症状

が治まつても陽性が出続け

が始まつた10月下旬以降、軽症・中等症病床の利用者も増え続ける傾向にある。府内に476ある病院のうち、新型コロナ患者を受ける病院は476ある病院のは、救急患者を24時間受け入れているのは84。病床を増やすため府が着目するのは、救急患者を24時間受け入れる2次救急病院のうち、内科や呼吸器内科があるが、受け入れは約70病院にとどまる。協議会では、コロナ患者を受け入れていない2次救急病院のうち、内科や呼吸器内科がある病床確保を要請する方針を示した。

府は入院を受け入れる病院に、医師や看護師への給与に充てられる支援金の支給も検討。病床の拡大をめさすが、協議会で府立病院協会の生野弘道会長は「急にやれというのは無理」と反発した。「第3波」

に対する府は重症病床対応に精いっぱい、軽症・中等症患者向けの対応が十分だったとは言い難い状況だ。

に對して府は重症病床対応に精いっぱい、軽症・中等症患者向けの対応が十分だったとは言い難い状況だ。

のため、23日の対策協議会では、府は厚労省の退院基準を満たした患者について、一般病院で受け入れよう求める方針を示した。

転院先を探すのに難航するケースもある。府内のコロナ患者の入院調整は、府の「入院フォローアップセンター」が括りで行って

いるが、症状が回復した患者の転院先探しは病院任せで、滞りも出でているためだ。(山中由暉、森下裕介)

コロナ患者の対応にあたる近畿中央呼吸器センターのコロナ病棟のスタッフ一同セントラルサイクル(一部にモザイクをかけています)